

以身伝しんぶん

竹間記者レポート集！

NO-MANAな日々



記事：竹間記者

今日は奥村家のボラ
ンティア。快晴。11時、
初日だ。オープニング
少し前に最初のお客様
(女性)が登場。聞く
と、この展覧会を見る
ため福岡から来て駅前
のホテルに2泊。招待
券だった。ゆつくりと

NO-MANA
ボランティア
活動の日々

然と決まっているよう
だ。30色のカラーペン
を全色使い切った所で
「できた！」その間約
30分。思わず握手した。
おかあさんは「こん
なに短時間で仕上げた
ことは初めて」とびっ
くりされていた。お母
さんに促されペンをケ
ースに終い二腕にま
るで飛び散ったインクを
丁寧に洗い流す。奇麗
好きだ。帰る段で受付
の女性に「奇麗だよ！
と握手！庭に出て二腕
親とスリーショットの
記念撮影。突然、顔の
前に両腕をクロスさせ
る。撮影はダメかと思
つたら、お母さんが「ウ
ルトラマンなの」突き
出された携帯の画面に
「タロー」がいた。シ
ュワッチ！ご機嫌なの
だ。新しく出来た前庭
のウッドデッキでお父
さんと絡む。心が和む
仲のいい家族だった。
「お肉！カラオケ！」
と言いながら奥村家に
向かわれた。作品はウ
ッドデッキの後ろ、ガ
ラス戸の中の壁に飾ら
れている。

静かに観賞される。奥
の廊下から庭に出て米
田さんの作品を見て、
奥まで庭を楽しんでお
られた。完璧な秋日和。
帰り際に印象を訊ねる
と「入り口の鎌田さん
の顔に怖くてビツク
リ、でも座敷の作品を
見ているうちに好きに
なってきた。

お客さんとのふれあい

ふと素敵な瞬間

1時からNO-MANA
の2階でボランティア
ア。3時頃お父さんに
連れられて男の子が上
がって来た。「草なぎ
さん」の展示室ですぐ
画用紙の置いてある机
に向かう。「やっつい
い？」すぐOKを出す。
大切そうに持っていた
ポケモンのフィギュア
を机に置き紺のペンを
取り出し作業を始め
る。何も教えていない
のにすぐコツを掴む。
大人がビデオを見てト
ライするが、ほとんどの
人は「草なぎさん」の
ように出来ずギブアップ
するのには、トン、ト
ン、トン、とリズムカ
ルに点を増やしてい
く。ペン先の出す音を
楽しむように集中。「疲
れた」と言うので右手
から左手に持替える
ことを言うときぐマス
ターする。途中お父さ
んを追いかけ1階に下
りるがすぐOKを貰
い、又制作を始める。
画用紙全体を使うこと
を薦める。何度も「つ
かれた」と言いながら
又制作。奥村家に行く
ため、お父さんが呼び
に来て残念そうに引き
上げる。福井から来た
小学1年生の男の子だ
った。

作者との出会い

9月22日(土) いよ
いよNO-MANAで、身体
から心を伝えるがテ
マの展覧会が始まっ
た。今日が初日。午後
からNO-MANAの2階
でボランティアに入
る。奥村家よりも活気
がある。3時前、今回
のポスターに使われて
いる作品を描いた「草
なぎ太」さんがご両親
と来られる。1階を見
ていよいよ2階へ。ま
ず自身の作品からイン
スピレーションを得
て、ショートドラマ仕
立てになった10分の音
声が聞ける奥の部屋
に。ほとんど無反応の
まま出て来て、自分の



30分で完成した草なぎ作品

作品が飾られている部
屋に。ここでも興味な
さそうで自分が制作活
動中のテレビがディス
プレイされているシー
ンと見ている。スゴイ勢
と見つめている。
スタッフが制作中の
まねをして、用意され
ている画用紙にカラー
ペンで描き始めるのが
つて来ない。5分以上
過ぎた時突然「ヨシー
」と言って、お母さん
腕時計と携帯を渡す。
机の前に座り、無造作
にカラーペンを垂直に

立て、凄く勢いで画用
紙にペン先を叩き付け
はじめた。何の迷いも
躊躇もなく、淀み無く
制作に没頭。スゴイ勢
いにペン先からインク
が飛び散り始める。ド
ラマーがスティックを叩
き付けるように、リズム
ムを刻む。手を撮影
するもペンの動きが早
く手が止まってペンは
手品のように消えて写
らない。肘を動かさず
手首のスナップだけで
制作。次々に色を取っ
替え、無造作に、右手
から左手に又右手に。ペ
ンを持ち替えながら画
面一面を動き回る。オ
レンジや黄色の暖色系
からブルーやグリーン
の寒色系に移る。無作
為的だが暖色から寒色
に移行することは、厳
然と決まっているよう
だ。30色のカラーペン
を全色使い切った所で
「できた！」その間約
30分。思わず握手した。
おかあさんは「こん
なに短時間で仕上げた
ことは初めて」とびっ
くりされていた。お母
さんに促されペンをケ
ースに終い二腕にま
るで飛び散ったインクを
丁寧に洗い流す。奇麗
好きだ。帰る段で受付
の女性に「奇麗だよ！
と握手！庭に出て二腕
親とスリーショットの
記念撮影。突然、顔の
前に両腕をクロスさせ
る。撮影はダメかと思
つたら、お母さんが「ウ
ルトラマンなの」突き
出された携帯の画面に
「タロー」がいた。シ
ュワッチ！ご機嫌なの
だ。新しく出来た前庭
のウッドデッキでお父
さんと絡む。心が和む
仲のいい家族だった。
「お肉！カラオケ！」
と言いながら奥村家に
向かわれた。作品はウ
ッドデッキの後ろ、ガ
ラス戸の中の壁に飾ら
れている。

秋晴れのNO-MANAにて

9月28日晴れ今日は
奥村家で午前のボラン
ティアシフト。秋晴れ、
金木犀がかすかに香
る。まずこれまでの日
誌を、ここ二日は入場
者が少ないし、今日も
・・と思っていたら突
然、カメラマンの大西

さんが来られた。やっ
ぱり、奥村家の入り口
にはびっくり！作家の
鎌田さんには大変興味
を持たれたようだ。聞
いたらNO-MANAの展
示活動の90%を記録さ
れているそうで当然、
フランスのナントにも
同行されていた。NO
-MANAに飾られてい
る「H」さんのことや座
位保持装置の「夢工房」
の話は深かった。「H」
さんは元設計をやられ
ていたそうで、あの几
帳面な図や文章に納
得。「夢工房」ではご
くわずかな手の動きに
反応する電動車椅子や
座位の型取りに身体を
石工取りしているとか
興味深い話が聞けた。
ぜひトークショーを開
いてほしいものです。
三脚は使わず手持ちで
撮影。



奥の「米田」さんの
作品撮影を見ていた
ら、庭にデイパックの
おじさんが居るではな
いか！あわてて呼ぶ
と、入り口からストレ
ートに庭に出て来た
と。障害者手帳を見せ
られたので、NO-MANA
に廻ってもらおう。一時
少し後に、東京から
女性が観にこられた。
ビエンナーレとNO-MANA
を合わせて観に来
て帰り際に「来て楽し
かった」と言われな
にかホッとす。



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら
https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club